

平成24年度第3回森林の未来を考える懇談会資料

「森林とのきずな」の再生に向けた 取組みについて

- 平成24年度県政世論調査について
- 森林づくり活動の現状
- 森林づくり活動の課題
- 「森林とのきずな」の再生に向けた取組みについて
- 森林環境情報の発信について
- 森林づくり活動推進の仕組み

平成24年12月25日

福島県農林水産部森林計画課

○ 平成24年度県政世論調査について

1 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2 調査実施概要

- (1) 調査地域 福島県全域(28市町村を抽出)
- (2) 調査対象 満15歳以上の男女個人
- (3) 標本数 1,300(人)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出

第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部(町村)」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点(市町村及び町丁・大字)を設定した。

第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。

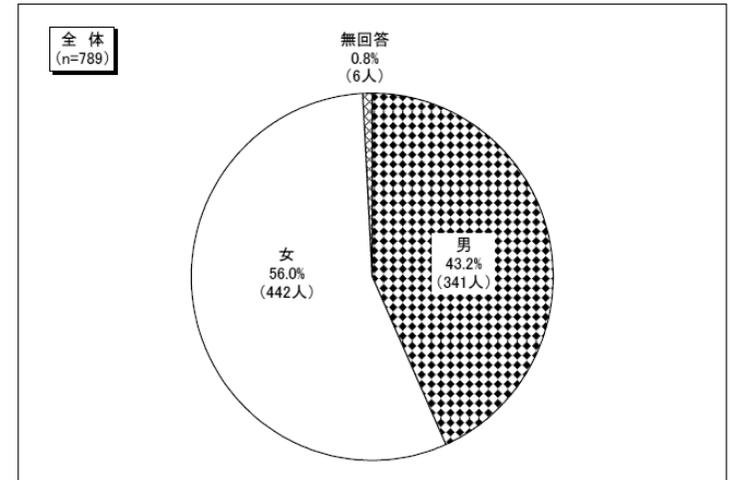
- (5) 調査方法 郵送調査(自記式のアンケート)
- (6) 調査期間 平成24年 8月 9日～8月22日
- (7) 回収結果 有効回収数789(回収率60.7%)

3 調査項目

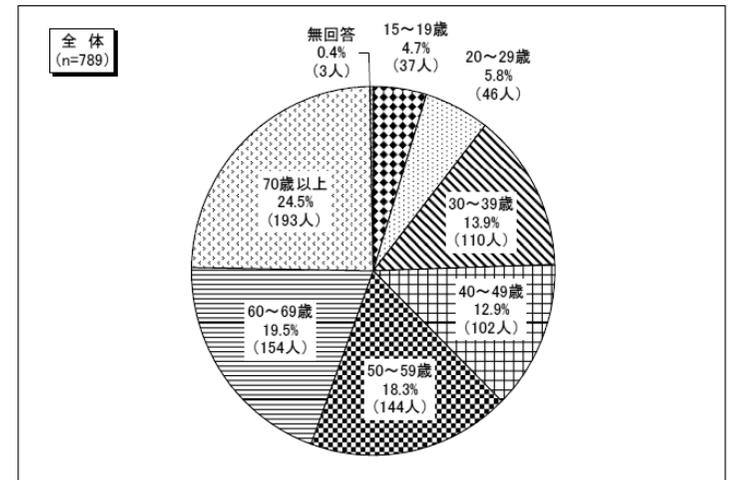
- (1) 『環境』について
- (2) 『水に関する意識』について
- (3) 『子育て支援策』について
- (4) 『青少年の健全育成』について
- (5) 『ユニバーサルデザイン』について
- (6) 『ジェネリック医薬品(後発医薬品)』について
- (7) 『地域社会の安全・安心(治安)』について
- (8) 『安全で安心な県づくり』について
- (9) 『県総合計画』について

4 回答者の構成

(1) 性別



(2) 年齢



県総合計画について

(1)福島県の現状

問31 次にあげた(ア)～(ニ)の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

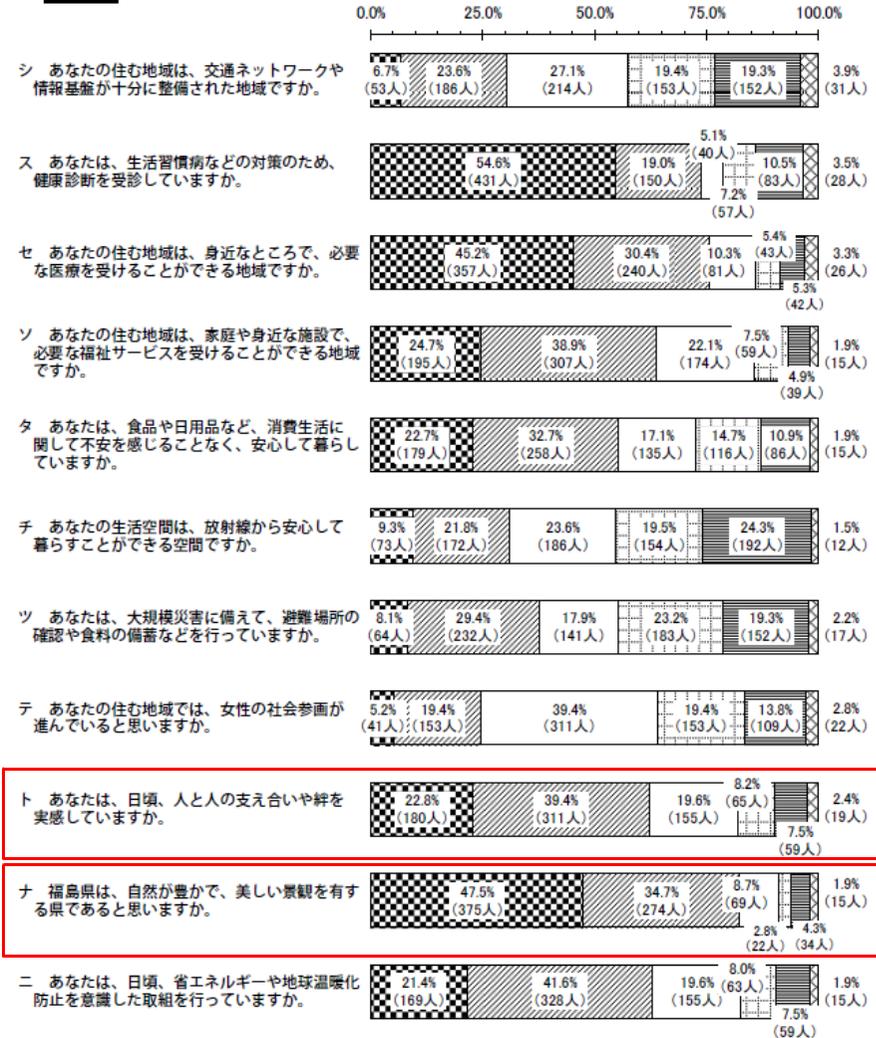
☑ はい
☐ どちらとも言えない・該当しない
☑ どちらかと言えば「はい」
☐ どちらかと言えば「いいえ」
☑ 無回答

全体
(n=789)



☑ はい
☐ どちらとも言えない・該当しない
☑ どちらかと言えば「はい」
☐ どちらかと言えば「いいえ」
☑ 無回答

全体
(n=789)



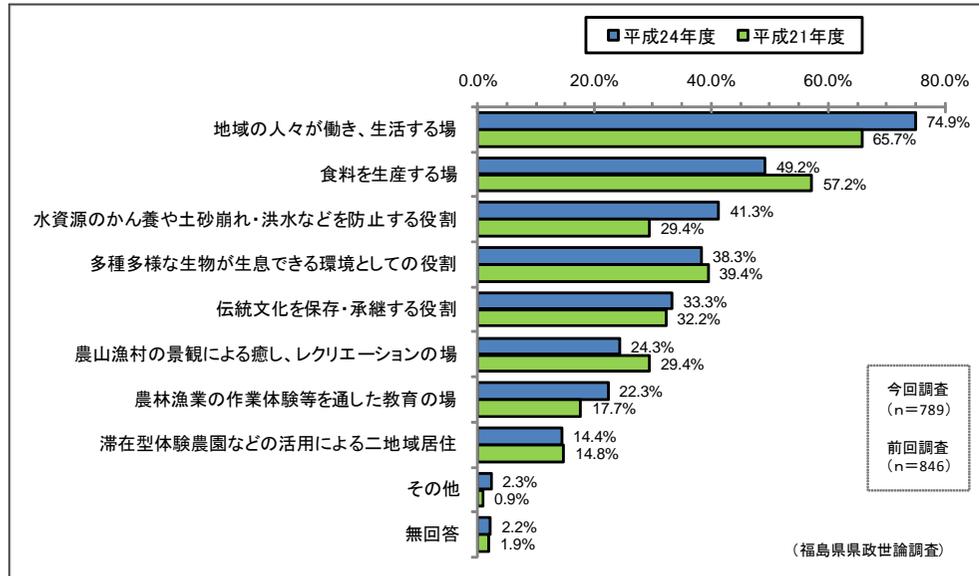
(平成24年度福島県県政世論調査)

○ 「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(89.7%)が最も多く、約9割となっています。

同様に、〈福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いませんか。〉(82.3%)が8割台、〈あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(62.2%)となっています。

○ 一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(68.2%)が7割弱で最も高くなっています。

(3)農山漁村に期待すること

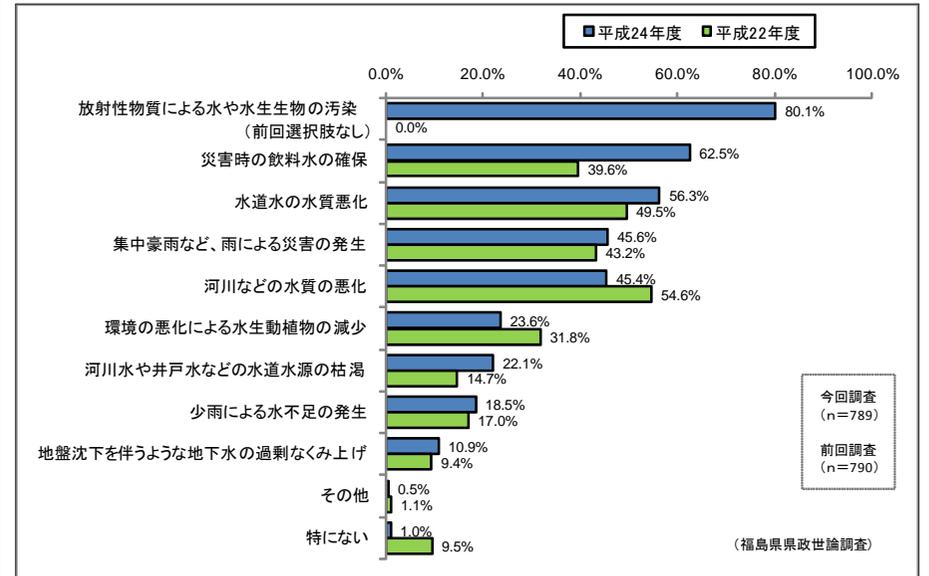


○ 震災後においても、農山漁村に対して「地域の人々が働き、生活する場」、「食料を生産する場」としての役割を期待する県民の割合が高くなっています。

○ 震災以前と比較して「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」に対する期待が高まっています。

(福島県農林水産業振興計画見直し案)

2 水についての心配や不安



○ 前回調査は「河川などの水質の悪化」の割合が最も高かったのですが、今回調査では、新設された選択肢「放射性物質による水や水生生物の汚染」が最も高く、2位以下も前回調査とは順位に変化が見られます。

(平成24年度福島県県政世論調査)

○ 森林づくり活動の現状

県民の森、昭和の森、緑化センターの県条例3施設を例とする「森林とのふれあい施設」の平成23年度の利用状況は、前年度(平成22年度)と比較すると16.1～79.6%に留まっている。とりわけ「県民の森」森林学習区域の利用者数は対前年比5.3%まで落ち込んでおり、放射線に対する懸念から子供たちの野外活動が制限されていることが大きく影響していると考えられる。

また、県が平成9年度から養成している「もりの案内人」への県内小中学校等からの依頼件数とプログラム参加者数について、前年度と比較すると件数で56.0%、プログラム参加者数は41.5%に減少している現状にある。

この傾向は平成24年度において回復傾向にあるものの、依然として森林づくり活動や森林環境学習活動は低調であり、放射線数値などの一方的な情報により、誤解や「何となく不安」、「とりあえず近づかない」意識が形成されているものと考えられる。

○森林とのふれあい施設利用者

(単位：人)

区 分	H22 (A)	H23 (B)	(A/B)
県民の森	203,290	32,821	16.1%
森林学習区域利用者	158,433	8,352	5.3%
オートキャンプ場施設利用者	44,857	24,469	54.5%
昭和の森	145,000	104,000	71.7%
緑化センター	162,339	129,160	79.6%

○もりの案内人活動状況

(単位：件・人)

区 分	H22 (A)	H23 (B)	(A/B)
依頼件数(件)	409	229	56.0%
参加者(人)	26,201	10,874	41.5%

○ 森林づくり活動の課題

緑豊かな県土の再生を、県民が一丸となった運動として進めていくためには、地域住民や地元の民間企業だけでなく、県外在住者も含め、携わる方々の多様化と森林づくり活動の更なる浸透を図っていく必要がある。

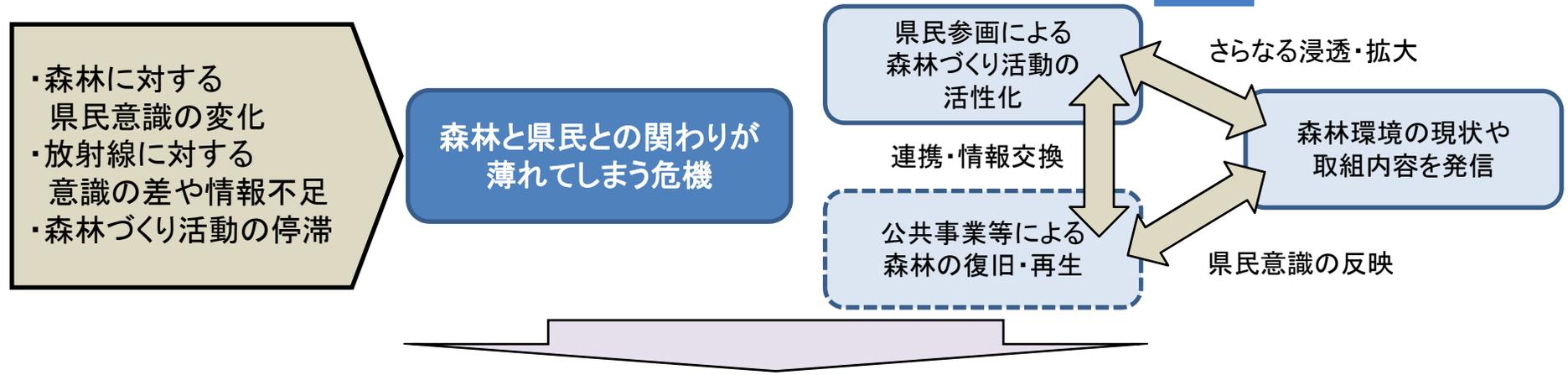
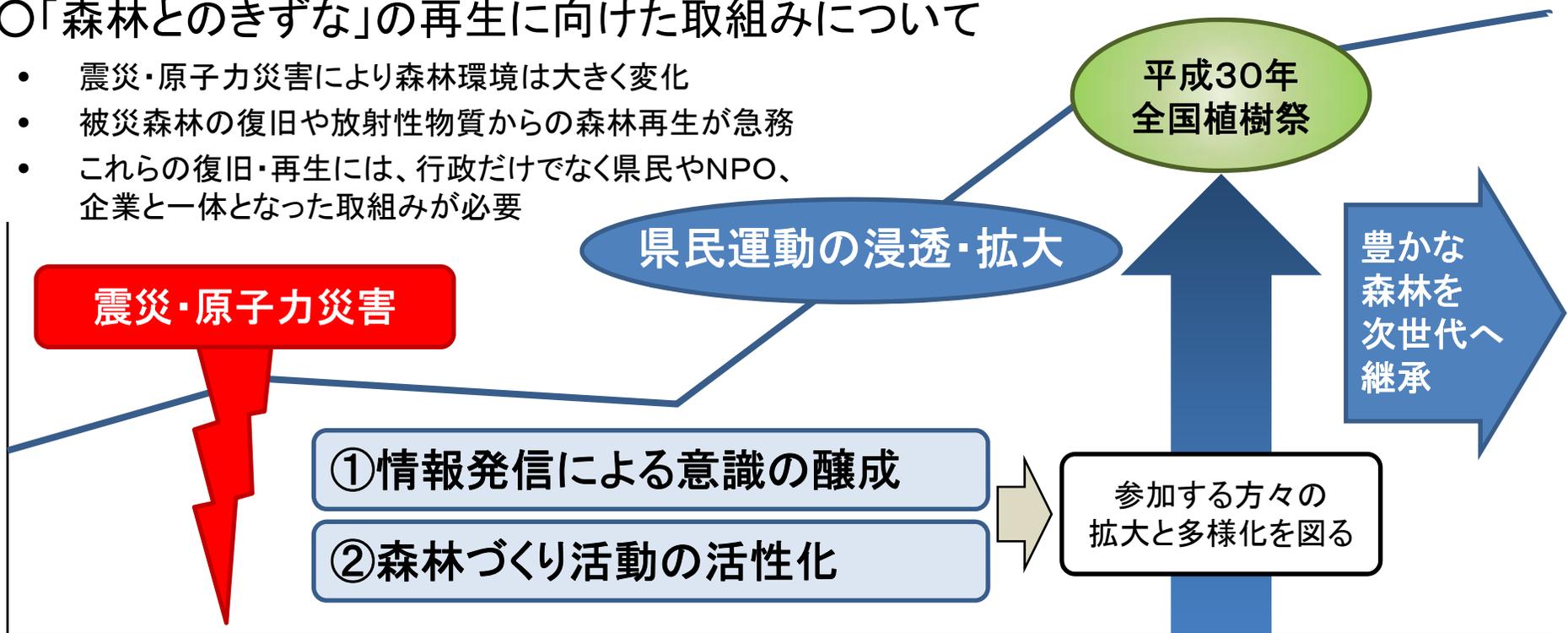
一方、この受け皿となる県内の森林ボランティア団体の登録状況は、22団体、585名となっているが、その殆どは森林づくり活動フィールドや活動資金の確保、組織体制などが不安定な現状にある。

このため、県内における森林ボランティアの総括的な組織である、「うつくしま21森林づくりネットワーク」の7つの基幹団体がまとめ役となり、地域の森林の特徴に応じた森林づくりを進めることができるよう、組織強化を図っていく必要がある。

○「森林とのきずな」の再生に向けた取組みについて

- ・ 震災・原子力災害により森林環境は大きく変化
- ・ 被災森林の復旧や放射性物質からの森林再生が急務
- ・ これらの復旧・再生には、行政だけでなく県民やNPO、企業と一体となった取組みが必要

(6 - 5)

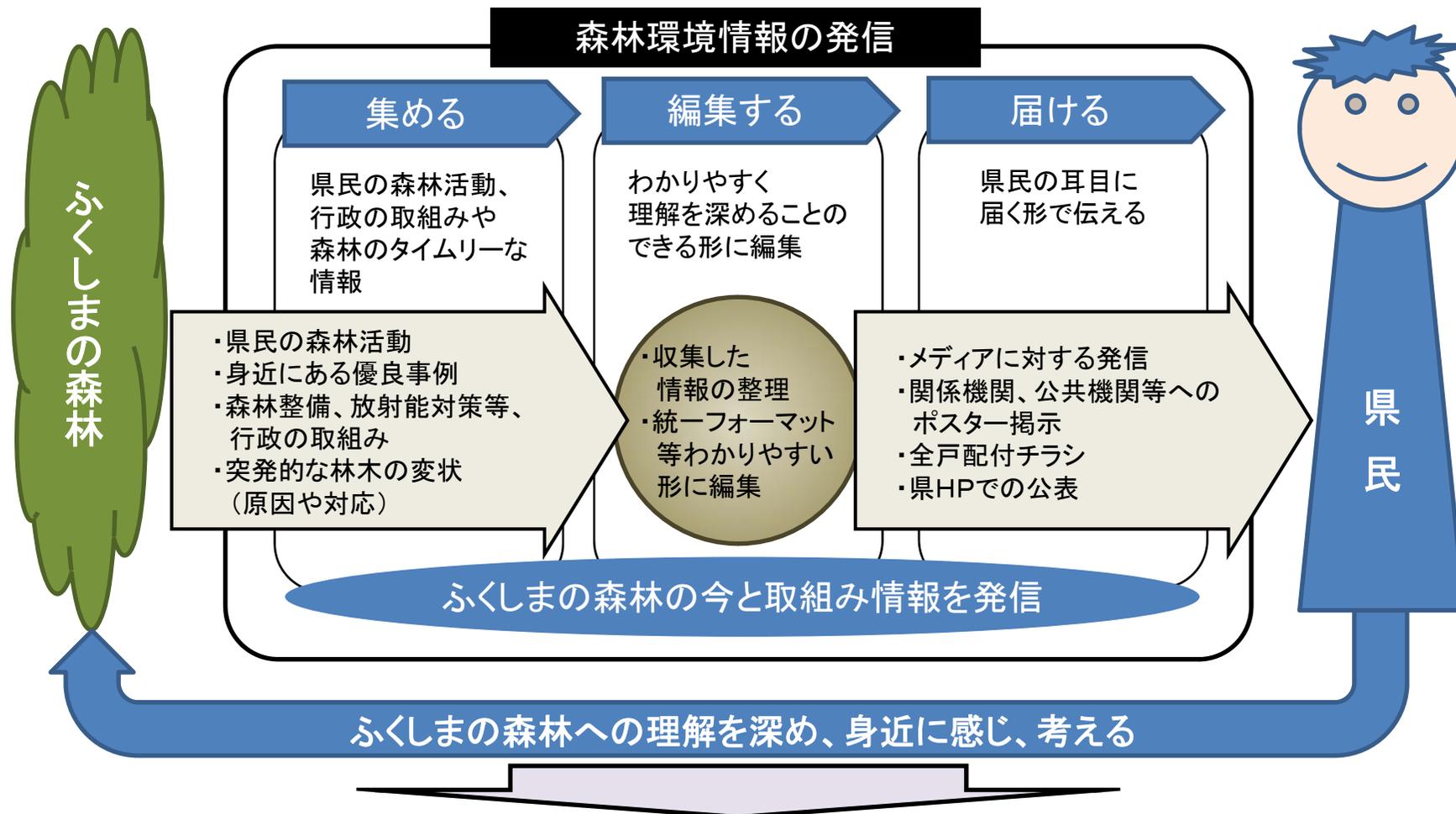


復興に向けて歩み続ける県民の姿と森林の再生を全国に発信

○森林環境情報の発信について

【現状と課題】

- ・震災や原発事故による状況変化により、森林が置かれている現状についての情報が不足。
- ・放射線数値などの一方的な情報により、誤解や「何となく不安」、「とりあえず近づかない」意識が形成。
- ・県民と森林とのきずなが薄れてしまう危惧がある。

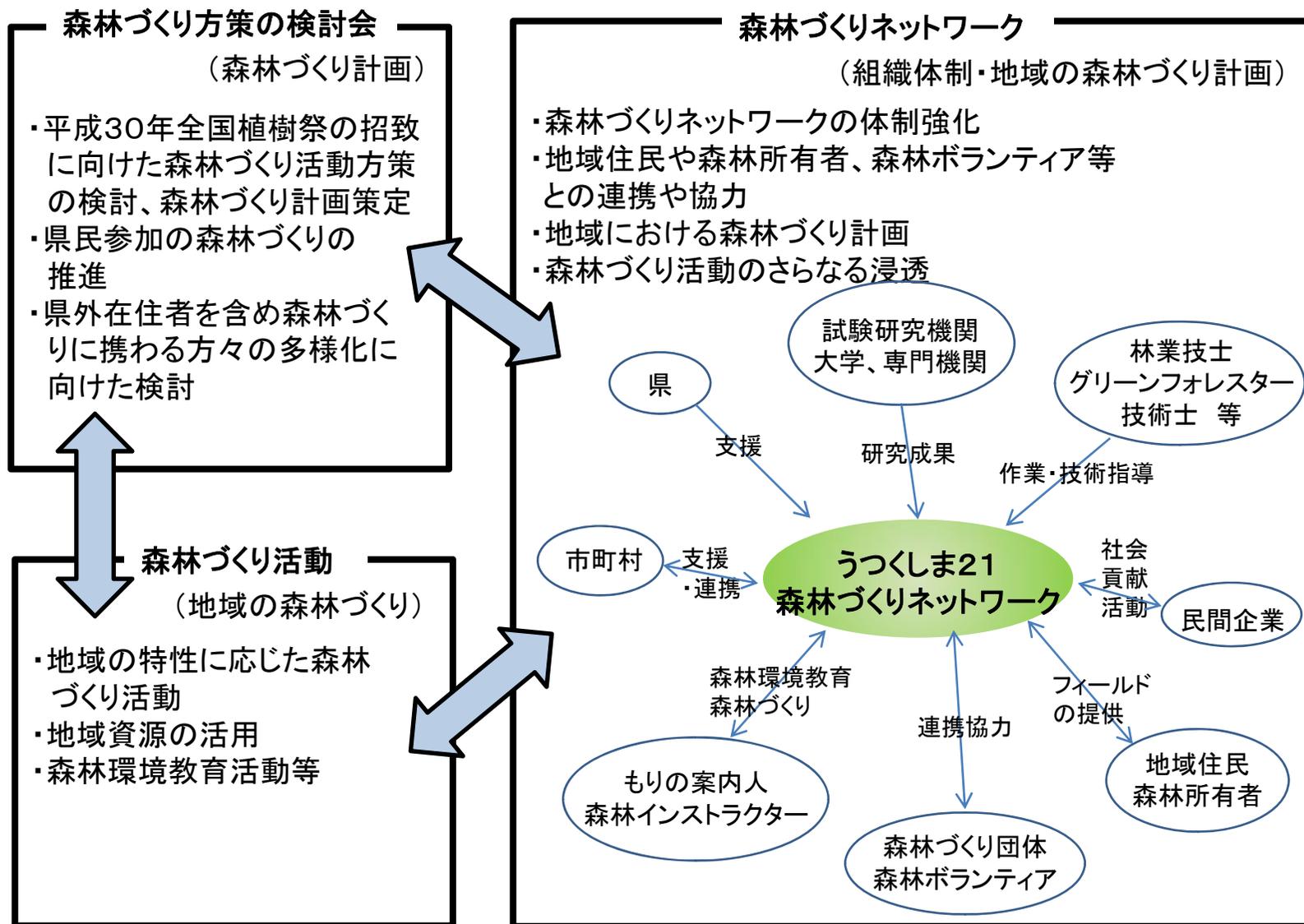


(6 - 9)

森林を県民一人一人が守り育て、次世代へ引き継いでいく心づくり

○森林づくり活動の活性化の仕組み

(6-7)



森林とのきずなへの再生